

2026 年 5 月 20 日

記者クラブ加盟各社 御中

AI で糖尿病をもつひとの「未来」を予測する新プラットフォーム 「福島医大 糖尿病未来予測ナビ」を公開

一人ひとりに最適な治療へ。“個別化医療” 実現に向けた新たな一歩

公立大学法人福島県立医科大学（糖尿病内分泌代謝内科学講座：島袋充生教授、田辺隼人准教授、渡邊桐子助教ら）は、千葉大学（川上英良教授）、国立健康危機管理研究機構（JIHS）（植木浩二郎 糖尿病研究センター長/糖尿病学会理事長、大杉満 糖尿病情報センター長）ら、株式会社エフコム（郡山市）との共同研究により、AI（人工知能）を活用して糖尿病を 5 つのサブタイプに分類し、将来の合併症・併存症リスク（糖尿病関連腎臓病、透析導入、心臓血管病など）を推計するウェブプラットフォーム「福島医大 糖尿病未来予測ナビ」を、本日 2026 年 5 月 20 日、福島県立医科大学附属病院、日本糖尿病学会、てだこ浦西駅循環器糖尿病クリニック 各ホームページ上で公開いたします。

本プロジェクトは、2026 年 3 月 24 日に発表した研究成果を社会実装するものであり、従来の画一的な治療から、患者一人ひとりの病態に応じた「個別化医療（精密医療）」への転換を、実臨床の場で可能にするものです。

福島医大 糖尿病未来予測ナビ 公式 URL：<https://tucd.net/>



公立大学法人 福島県立医科大学 <https://www.fmu.ac.jp/>

一般社団法人 日本糖尿病学会 <https://www.jds.or.jp/>

一般社団法人 てだこ浦西駅循環器糖尿病クリニック <https://tucd.jp/>

【本取組のポイント】

- AI が糖尿病を 5 つのタイプに分類

日常診療で得られるデータ（年齢、BMI、血糖値等）を解析し、患者を 5 つのサブタイプ（クラスター）に分類、合併症リスクを可視化します。

- 診断時点で将来の「透析リスク」を推計

早期段階のデータから将来の透析導入リスクを推計可能です。特に「重症インスリン抵抗性（SIRD）」は、8 年間で透析導入リスクが約 4%に達することを特定しています。

- 日常診療ですぐに活用可能な「ゼロセットアップ」設計

特別な検査を必要とせず、一部データが不足していても AI が補完する独自技術を搭載。幅広い医療現場での活用が期待されています。



公立大学法人

福島県立医科大学

〒960-1295

福島県福島市光が丘 1 番地

TEL:024-547-1111 (代表)

【研究の背景と社会実装】

国内約 1,000 万人の糖尿病患者において、合併症の進行には大きな個人差があります。本研究は、国内最大級のデータベース「J-DREAMS」（日本糖尿病学会運営）を活用し、日本人の病態に最適化され予測モデルを構築しました。

本日より、福島県立医科大学附属病院 HP にて公開されるほか、日本糖尿病学会ホームページ、てだこ浦西駅循環器糖尿病クリニックホームページ においても「糖尿病サブタイプ 分類アプリ」として紹介され、全国的な普及を目指します。

【福島県立医科大学 医学部糖尿病内分泌代謝内科学講座 島袋充生教授 コメント】

「糖尿病は決して『ひとくくりの病気』ではありません。今回の AI プラットフォームの公開により、診断の時点から一人ひとりの将来像を可視化することで、自身の正確なリスクを知り、『自分に合った最適な治療』を前向きに選択し、重症化を未然に防ぐためのものです。患者さんと医療者が同じ未来を共有し、ともに歩んでいく。そんな新しい糖尿病医療のスタンダードを、ここ福島から全国へ広げていきたいと考えています。」

【本件に関するお問い合わせ先】

福島県立医科大学 糖尿病内分泌代謝内科学講座

電話：024-547-1111 (代表)

メール：dem@fmu.ac.jp